2005年 第3回

アート的旅行学

月と太陽を同じ日に拝む、というスペクタクルな、夏至に合わせての旅。
また絶世の美女の代名詞のように言われてきた小野小町、しかも晩年の恋のあり方を訪ねます。
日本の民俗学の始まりといわれている菅江真澄の紆余を交えながら、ベテラン講師と共に、楽しく旅する。
これら古典と現代を対比しながら、現代アートの素顔まで、深く追求する旅いろいろ。

未知への旅は、なんと楽しい。
第3年目を迎える「2005年・アート的旅行学」は、
日本の神々を知ることから始めます。
昨年に引き続く、西行 が何故この聖地に何年も留まっていたのでしょうか、

講演会6回＋旅行4回

講演会 19:00〜21:00

4月23日(土)／吉田悦之
本居宣長は神をどのように考えていたか

宣長の「神」についての公式見解（『古事記伝』など）はよく知られているが、
目を転じて個人の信仰というごく私的なレベルを覗めると、
公式見解では説明しにくい神の世界が顔れてくる。「古典の神々」と「私の神様」。
宣長にとって「神」とは何であったのか。
この二つの神々の世界は連続するのか、断絶するのか。

1957年三重県松阪市生まれ。1989年慶應義塾大学文学部卒業。
財団法人鈴屋遺跡調査会会・本居宣長記念館研究員となる。現在、主任研究員。
著書に『2001年宣長読む』、主論文に「宣長と函館」、「本居宣長四十四歳自画自賛像を巡り」、
「真淵と宣長―山口御中朝詣・その後」、「鈴屋会を巡る宣長」、「山室山奥墓再考」等。
共同執筆『三重県地名大辞典』、『本居宣長辞典』、『21世紀の本居宣長』等。
研究テーマ：宣長の自画像、宣長における知られることへの意識。

7月2日(土)／小林責
能における小町

役者が老齢にならなければ演じられない能の秘奥の曲は
＜関寺小町（せきでらこまち）＞＜檜垣（ひがき）＞＜姨捨（おばすて）＞の
「三老女」で、中でも最奥の曲は＜関寺小町＞だといわれる。
能は、世阿弥以来、幽玄（優美）を理想として、600年の歴史を刻んできた。
『伊勢物語』や『源氏物語』の美女たちを描いた
＜井筒＞＜野宴＞などを最高に幽玄な曲として大切にしながら、
他なぜ小町の老いさらばえた姿を極致の曲とするのか、
能の美意識の不可解さに迫りたい。

能楽研究家。1928年東京生まれ。早稲田大学第二文学部中退。
武蔵野女子大学客員教授。国立能楽堂（三役）研修講師。
文化庁伝課審議会専門委員ほか文化庁関係の諸委員を歴任した。
著書に『日本史研究』（1970）、
『日本古典芸能と現代―能・狂言』（横浜市立図書館共著、1998）ほか。

8月6日(土)／錦 仁
小町伝説の誕生

小町の歌は、甘く、切ない。おまけに絶世の美女とされている。
だが、晩年の生活はみじめなものだったという。彼女も老いには勝てなかった。
全国各地に、こうした小町伝説がたくさん生まれた。
日本人は、美と哀の小町の人生になにを見ていたのだろうか。
秋田県雄勝郡雄勝町の小町伝説をとりあげ、修験者も、秋田藩主も、
秋田藩の文人たちも加わって小町伝説を作りあげていったプロセスをあきらかにする。
古来、小町を愛してやまない日本人の心の奥底に迫る。
※雄勝町は平成17年4月より湯沢市に合併される。

1947年、山形県生まれ。東北大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程中退。
秋田大学教育学部教授を経て、現在、聖徳大学教授、現代社会文化研究科博士後期課程主任教授。
専攻は中古・中世文学。主な著書に、『中世和歌の研究』（ぺりかん）、
『百人一首の山歩き』（松柏書院）、『東北の地霊鎮魂―死と再生』（三弥井書店）、
『浮遊する小野小町―人はなぜモノガタリを生みだすのか』（笠間書院）などがある。

11月5日(土)／前田速夫
白の民俗学へ

白は聖なる色か、魔の色か、はたまた禁忌の色か。被差別の民が祀る白山神には、
白とシラ（稲霊）にまつわる謎が付きまとう。ツミ・ケガレから逃れられない人間を清め、
再生へと導く逆転の構図とは？歴史学、宗教学、文化人類学、
そして、美術、文学をも横断する、民俗学の新たな冒険！

1944年、新潟県の福井県白山に生まれる。東京大学文学部英米文学科卒。
文芸誌「新潮」前編集長。著書に『異界遍歴』『神々の里 聖地山岳の人と伝説』がある。

2006年 1月21日(土)／花澤周志
島旅『止まる、泊まる、留まる』

海岸がある国に生まれ、しかも島がある。それも多数。
忘れてしまいたくない海洋民族としてのアイデンティティ。
船に乗るときの期待と不安。島の旅は待つことの連続。
自分なりのくつろぎと判断力を発揮する場。
『止まる、泊まる、留まる』を基本に現在も日本の島巡り継続中。

1956年千葉県生まれ。1981年、千葉大学工業意匠学科卒。現在大阪在住。
サラリーマン生活を続けながら、40歳代に、日本の島、100島を巡る

松岡正剛
詳しくは追ってお知らせします。

旅行
5月21日(土)・22日(日)
古事記を旅する／神空間を巡る

本居宣長記念館、
伊勢神宮、熊野神宮など
講師：吉田悦之、
矢野憲一
志賀剛ほか

旅行
8月20日(土)・21日(日)
小町伝説を旅する

秋田・菅江真澄資料センター、
雄勝町など
講師：錦 仁

旅行
10月22日(土)・23日(日)
庭園研修旅行

京都　東福寺本坊など
講師：重森千青
〜兵庫　浄土寺など
講師：小沢朝江

旅行
2006年 4月8日(土)・9日(日)
隠岐の桜と歴史を訪ねる

旅行についての詳細は、お問い合せ下さい。

WATARI-UM
The Watari Museum of Contemporary Art
ワタリウム美術館
〒150-0001　東京都渋谷区神宮前3-7-6
Tel.03-3402-3001　Fax.03-3405-7714
Email:official@watarium.co.jp
http://www.watarium.co.jp

「アート的旅行学」2005年第3回 申込書
FAX:03-3405-7714 へお送り下さい。

お名前　　会員No.

ご住所〒

TEL:　　FAX:

ご職業

「アート的旅行学」2005年第3回　会員募集

特典
■ワタリウム美術館の展覧会はフリーで自覚頂けます
■ワタリウム美術館特別ニュースを受け取ることができます。
■ワタリウム美術館が開催する講演会の特別割引が受けられます。（有効期限：2005年4月迄）

お申込
■参加希望の方は、申込書に必要事項を明記入のうえ、郵送またはFAXでお申込み下さい。
なお同時に会費を下記の口座に振込み下さい。
定員になり次第、締め切らせていただきます。

会費
■入会金 10,000円
■年会費 13,000円（講演会6回＋旅行4回、旅行経費除く）
■振込先：三井住友銀行　青山支店
[普]1033281 名）ワタリウム美術館

問合せ・郵申込先
■ワタリウム美術館 〒150-0001　東京都渋谷区神宮前3-7-6
Tel.03-3402-3001 Fax.03-3405-7714
Email:official@watarium.co.jp　http://www.watarium.co.jp